

まんさく

第290号

発行
特別養護老人ホーム光寿苑
まんさく編集委員会
和賀郡西和賀町湯本30-76-1
TEL 0197-84-2526
koujhu@fancy.ocn.ne.jp
題字 元理事長 太田 祖 電



高橋里子さん、町長より100歳お祝い [令和5年7月10日]

この日、100歳になられた里子さん。息子さんも「感激の瞬間に立ち会えた」と大喜び♪

290号もくじ

☆2～3頁★

- * 医務目標
- * 介護「大通り」目標

☆6頁★

- * ひなたぼっこ紹介
- * 苑内研修報告

☆8頁★

- * 「光寿苑の日々」(4コマ漫画)

☆4頁★

- * 想…災害を捉える(前半)
- * 「職員募集」のお知らせ

☆7頁★

- * 元気です！家族会(早朝草刈り)
- * 光寿苑のかお(入居者紹介…表紙と関連記事です)

☆5頁★

- * 想…災害を捉える(後半)
- * 面会・外出・寄贈・等紹介

- * 「自然法爾」(おきさんのお話)

- * 「おわりに」

相手を活かし、自分を活かす意識で出発します♪

【生活】「②医務部門」 ☆佐藤真理子☆

法人キーワード	令和4年度共通のキーワードは『続・知る』							
テーマ	振り返りの機会を得て、原点に立ち還り実践していく。							
令和4年度下半期のイメージ	理想像	<table border="1"> <thead> <tr> <th>目標 ①</th> <th>目標 ②</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>看護の知識・技術を共有すると共に、倫理についても共に学ぶ機会を持つ。</td> <td>まだ関わっていないご家族もいるので、お年寄りの状態をお伝えし、共有していく。</td> </tr> <tr> <td>①ユニット内で得た情報を医務内で共有し、看護の視点を持ちながらお互いの理解を深めていく。</td> <td> ①下半期は計画的に関わりながら、家族の想いを知り、ケアに活かしていく。 ②面会の際には、積極的にご家族の元へ行き、様子を伝える。〔気持ちも伺う〕 </td> </tr> </tbody> </table>	目標 ①	目標 ②	看護の知識・技術を共有すると共に、倫理についても共に学ぶ機会を持つ。	まだ関わっていないご家族もいるので、お年寄りの状態をお伝えし、共有していく。	①ユニット内で得た情報を医務内で共有し、看護の視点を持ちながらお互いの理解を深めていく。	①下半期は計画的に関わりながら、家族の想いを知り、ケアに活かしていく。 ②面会の際には、積極的にご家族の元へ行き、様子を伝える。〔気持ちも伺う〕
	目標 ①	目標 ②						
	看護の知識・技術を共有すると共に、倫理についても共に学ぶ機会を持つ。	まだ関わっていないご家族もいるので、お年寄りの状態をお伝えし、共有していく。						
①ユニット内で得た情報を医務内で共有し、看護の視点を持ちながらお互いの理解を深めていく。	①下半期は計画的に関わりながら、家族の想いを知り、ケアに活かしていく。 ②面会の際には、積極的にご家族の元へ行き、様子を伝える。〔気持ちも伺う〕							
具体的な取組み (いつ、何を、どのように)								



法人キーワード	令和5年度共通のキーワードは『活かす』							
テーマ	家族・職員から得た情報をお年寄りのためにタイムリーに活かしていく。							
令和5年度上半期のイメージ	理想像	<table border="1"> <thead> <tr> <th>目標 ①</th> <th>目標 ②</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>★職員で得た情報を共有し合い、活用した結果を評価し、次に繋げていく事ができる。</td> <td>★積極的に家族と関わり、得た情報を活かし、結果を家族と共有する。</td> </tr> <tr> <td>①ユニット内で得た情報を医務内で共有し、看護の視点を持ちながらお互いの理解を深めていく。</td> <td> ①面会の場を積極的に利用し、様子を伝える。 ②面会の少ない家族には、電話で積極的に様子を伝える。 </td> </tr> </tbody> </table>	目標 ①	目標 ②	★職員で得た情報を共有し合い、活用した結果を評価し、次に繋げていく事ができる。	★積極的に家族と関わり、得た情報を活かし、結果を家族と共有する。	①ユニット内で得た情報を医務内で共有し、看護の視点を持ちながらお互いの理解を深めていく。	①面会の場を積極的に利用し、様子を伝える。 ②面会の少ない家族には、電話で積極的に様子を伝える。
	目標 ①	目標 ②						
	★職員で得た情報を共有し合い、活用した結果を評価し、次に繋げていく事ができる。	★積極的に家族と関わり、得た情報を活かし、結果を家族と共有する。						
①ユニット内で得た情報を医務内で共有し、看護の視点を持ちながらお互いの理解を深めていく。	①面会の場を積極的に利用し、様子を伝える。 ②面会の少ない家族には、電話で積極的に様子を伝える。							
具体的な取組み (いつ、何を、どのように)								

令和5年度の法人キーワードは『活かす』です！

【生活】「⑥介護部門…大通り」 ☆菊池直樹☆

法人キーワード		令和4年度共通のキーワードは『続・知る』	
令和4年度下半期のイメージ像	テーマ	続・個別ケア	
	理想像	目標 ①	目標 ②
		お年寄りの想いに添ったケア	介護技術の向上
具体的な取り組み (いつ、何を、どのように)	①一人ひとりをもっと知る ⇒ふとした言動、ご家族との会話などからもっと本人を知り、想いに添ったケアができるようにしていく。 ②今を伝える ⇒気軽に会えない時だからこそ、情報交換を大切に、疎遠にならないようにしていく。	①個々に合った介助方法の探求 ⇒状態や成果、課題等の情報共有を密にし、より良い入浴方法や食事の際のポジショニングの方法を探していく。 ②基本があつての応用 ⇒なぜ、こういうやり方をしているのか？なぜこのやり方だとまずいのか？一つ一つの動作に責任を持ち、説明できるようにする。	



法人キーワード		令和5年度共通のキーワードは『活かす』	
令和5年度上半期のイメージ像	テーマ	皆が生きるケア	
	理想像 上半期	目標 ①	目標 ②
		★互いを活かした暮らし	★介護技術の向上・実践・継続
具体的な取り組み (いつ、何を、どのように)	①残存機能を活かす ⇒介護の世界ではあたり前の事だが、今一度基本に戻り、“手を掛け過ぎているか”、“想いに添ったケアができていないか”を見直し、心身の機能回復・維持に努めていく。 ②スキルを活かす ⇒趣味や特技、前職や経験など、職員一人一人の得意分野を活かして、お年寄りの暮らし（職員は仕事）に楽しみを提供する。	①個々に合った介助方法の探求 ⇒昨年度知り得た情報や介護技術を活かし、お年寄りのより良い暮らしに繋げていく。 ②「基本あつての応用」を常に理解しておく ⇒“なぜこういうやり方をしているのか？”、“なぜこのやり方だとまずいのか？”…一つ一つの動作に責任を持って説明できるようにする。	

八重樫敏氏に連載で筆をとって頂いております。読者の皆様からは、「リアルに危機迫るものを感じた」「忘れてしまっていた当時の事を思い出し、身が引き締まる感触」等々、賜っております。今回も2頁に渡り、全文をご紹介したいと存じます。ぜひ、ご一読下さい。

震災の記憶③

徐々に停電が復旧するとともに、断水も解消していききました。我々組合の災害対応も本格的に回るようになり、水道管破裂箇所も復旧も進み、1週間程度で北上市内はほぼ全域で断水解消になったと記憶しています。ただし、この時期はまだまだがソリソリや食料品などの生活物資の入手に困難が伴いました。現代の日本で、よもやこのような苦勞をすることがあるのかとため息ばかりが出ました。か、むしろ戦前生まれの父の方が案外的に「何とかなるから」などと云っていたことに驚愕したのも忘れられません（自分は「そんなすぐに何とかなるわけないだろう」と、忌々しげに思っただけです）。

市内の復旧に目途がつき始めると、今度は沿岸です。震災直後から県内の同業団体を通じて情報も届けられておりましたが、その沿岸に通じる道路の啓開も進むまで手が出せませんでした。また、どの地域のどの施設から復旧させていくのか、恐らく避難所がある地域や津波を免れた地域を優先して復旧させるのでしょ

か、結局は水道施設のルートがどうなっているのかで分かっていく地域元が復旧活動に動かないと、我々もどうしようもないという状態でした。ある地域という「点」ではなく、広く「面」で被災しているため、被害状況の確認からすでに時間が掛かっています。最悪、復旧させないエリアが出るかもしれない、と思ったものでした。

そう言えば、震災から1週間ほど（いや、もっとか!?）経った頃、とある行政の知人から急な電話があり、「ちよっと北上市内の水道の復旧作業の進捗などを聞かせて欲しい」とのこと、と、とりあえず伺ってみることにしました。同じ行政なのだから直接担当部署に問い合わせれば良いのに、と、少々訝しみながら、指定された場所に行き、た記憶があります。辿り着いた先には行政の様々な方がいて（まだあまり詳しくは書きませんが）、そこにはいたメンバーに自分の大学の先輩が入っており、そうした経緯で民間の災害復旧活動を担当していた自分も招かれたという感

職員募集中

- 看護職員（お年寄りの健康を守ります）
- 介護職員（お年寄りの暮らしを守ります）
- 調理職員（お年寄りの食を守ります）

【特に急募しております↓↓↓】

看護師と調理員

町外の方等であれば、住まいも併せてケアさせて頂きます(^_^)

まずはお電話を！0197-84-2526



ええ、きゅつ、求人……！

想... 災害を捉える ~岩手から発信します~

『震災の記憶③』 八重樫 敏 氏



いで、その時点での官民も問わない様々な情報交換がなされていました。災害対策として、当時の行政や進められたものやごんごん軌道に乗っていき、またそれと並行して新たな対策も始められ、(表面上は)復旧・復興に向けて一丸となって進んでいるといった状況でありました。

そんな中でも、行政は行政で、民間は民間で、それぞれ様々な矛盾も戦っていました。市のさらに上の方から来る要請や指示などは、今となってはやはり無茶苦茶だと思えるようなものもあつたと聞きましたし、我々に対しても納得のいかないいわゆる「お願いの」という名のものも届いたものでした。

寝不足も続き体力もごんごん削られていく中、我々は元々地域や被災地のどこかで困っている誰かのために動いていたものが、いつの間にかどこの誰とも分からぬ人と闘っている...という錯覚に陥り出します。

そういった様々な矛盾、納得のいかない話を、その情報交換の場でそれぞれ吐き出した、そういう場になりましたが、今となっては、その

時のその会を取り持った方が、爆発しそうな我々を見かねて、そういう場を設けたのだなあと思います。そこで出た様々な話は今はまだ世に出せませんが、災害復旧中、まさにその最中であつても、そのような言わば、「がス抜き」のようなことは必ずやなのだと強く思っています。世界の多くのところで災害が起る今、そういう場を現場の多くの人のためにも設けて欲しいと思うのです。

八重樫 敏

【次号へ続く】

八重樫 敏 氏

株式会社ヤエガシ代表取締役社長

昭和21年7月に陶器店として商いをスタート。そのおよそ6年後昭和27年4月に今の業種である水周りの工事関連としての浴槽造りであるタイル工事をスタートし、今年70年目を迎える老舗の代表。志しを語る。

『変わらない大切なもののために変わる勇気と行動力を持つ』

【ホームページより抜粋】

光寿会への支援

おかげさまでした

面会・外出 [6月1日~30日]

- 【対面面会】
- ★ 延べ44名 (対象入居者20名)
- 【外出】
- ★ 1名 (自宅外出)

寄 贈

- ☆ 高橋 ちづ子 様 [下 前]
- ☆ 中田 幸子 様 [東京都]

★=光寿苑、☆=ひなたぼっこ



今月の登録者の方々
13 名 様です♪

小規模多機能ホーム「ひなたぼっこ」
住宅型有料老人ホーム「湖畔の宿」

コロナ禍から少しずつ活動再開♪「ひなたぼっこの日常」



左2枚 お茶会「七夕吹流し作り」

右上 ドライブ寄り道中

右下 上野々地区サロン買い物ツアー

苑内研修 事故防止①と緊急時対応

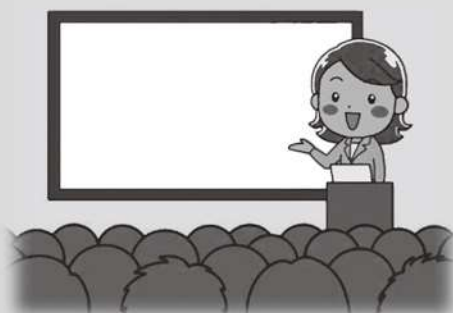
【誤嚥事故予防セミナー動画視聴】

～ 2023年6月27日、29日の2日間 ～

- ① 誤嚥時の緊急対応の考え方
- ② 見守りの基本 ～ 異変の特徴 ～
- ③ 誤嚥のメカニズム

～ 誤嚥・窒息は見えない喉で起きている ～

以上の内容を視聴し、改めて自分たちの普段の観察の重要性や介護のあり方を振り返る時間となりました。



研修の写真撮り忘れまして(汗)

第109回

109回目は、家族会役員さんたちによる光寿苑周辺の早朝草刈りの様子です。朝早くからおかげさまでした(^^)♪



元気です！家族会♪

光寿苑のかお

【入居者紹介】



旧沢内大野生まれで、ク人兄弟の一番上の姉として暮らしてきたそうです。
 “ほおろ大変だ”の口癖から始まる里子さん。喜怒哀楽、好き嫌いかハッキリしている方です。昔、大家族の家に嫁いだこともあり、子育てには大変苦労されたようです。旦那様の兄妹も同居していた時には、10人分の弁当を作っていたことも！「優しい母だ」と息子さんはいいます。毎日、子ども達を楽いて頑張ってきた偉大なお母様です。(意)



高橋 里子さん

☆西和賀の明るなお母様♡
 この度、100才到達です♪
 【担当：柴田 恵美】

こーやって祝ってもらって、ありがでなあ♪

100才のお祝い言葉

290号

介護度々で入居の運びとなったSさん。車いす利用を嘆いていらした。

なあんして(何で)こうなってさんたんな...

歩ぐ練習してみてなあん。

ご本人のたつての願い。職員も付添いながら、歩行器を使ったの訓練が少しずつ始まった。

他施設の作業療法士の方に「助言賜りながら、毎日歩いた。」

1、2、3...
いっすね、その調子!

おはようさん♪ このまま家さ行っていくべが、アハハハッ♪

今では付添い不要、自分のみで歩いている。本人も家族も職員も喜ぶだ。

イラスト：1000

介護状態が本人の前向きな気持ちと努力により良化していく事は、この仕事に携わる者としては喜びの度合いとても大きい。寧ろバックアップも含めて、「支援加算」なるものを頂けるなら嬉しいが、介護保険制度は低料金による設計。改善を願う!

人の世の思いは尽きず サリながら 涅槃懐かし 夕日をおかむ

《金子大榮》

第89回 丸田善明

自然法爾 (じねんほうに)

真宗会館(盛岡)の談話室には、金子大榮先生の揮毫された短歌が掲げられています。先生93歳の作品を、南部古代型染めの小野三郎さんが型染め制作したものです。

金子先生は、昭和51年10月20日に96歳で七くなりましたが、最晩年に至るまで、世界的視野に立って親鸞の到達した浄土真宗を発信し続けました。

死に行く身である。晩年の金子先生は、就寝する時、安子夫人に「休んでもいいかね」と声を掛けるのが常だ。たといいます。ひと度眠りについいたら、

起きてこれないかも知れない。これが今生の別れとなるかも知れず。夫人は、どうぞ、お休みなさいませ」と返す。一日には一日の涅槃がある。

と、先生は言われました。

涅槃とは、煩惱の火が消えて、安らいだ状態を意味する言葉。煩惱をエネルギーとして展開する「人の世」は、喜怒哀楽から離れることができない。その「人か」とは、生涯を「涅槃に向かう者」として生きる道を聞いたのが、仏陀の「サトリ」でした。

涅槃への道に支えられた煩惱の一日を、今日も生きます。

おわりに

僧侶の林星児師のお話を伺った。其宗保育の理念は「共に生き、共に育ちあり」です。子と一緒に育っていく事です。子から育てられた事あります。子どもがケンカしてたら、大人が仲裁に入り謝らせる。片方が謝ったらもう一人の子に、「謝ってるよ、何で言うの?」と迫る。淡々謝る。大人は子の気持ちを持ちを聴かず「手打ち」を教える。子は納得や理解もできないまま大人の対応を身につけていく。嫌な気持ちや嫌なんだと言えぬ事大事。子どもは不完全な存在と思ってるから、あれこれ手打ちを教えようとする。そもそも大人は完全な存在と言えぬのでしようかね。

※私自身、見透かされた時間(心縁)